研究レポート No.207
発行　平成１５年５月
岩手県農業研究センター

雨よけトマトの点滴潅水施肥栽培における施肥量低減

地床利用の点滴潅水施肥栽培において、施肥量を現場慣行の 60%程度減肥しても商品果収量が安定確保される。このときの葉柄搾汁液中硝酸イオン濃度の栄養診断指標値は栽培期間中 1000～4000ppm であり、土壌ＥＣの指標は 0.05～0.15mS/cm である。

表１　減肥区における養水分管理の実際

生育ステージ	定植	～	活着期	～	第２花房開花期	～	第３花房開花期	～	収穫終了１ヶ月前	～	栽培期間（180 日）
定植後日数	0		7		21		30		150		の合計施用量
窒素施肥量（mg/株/日）	0		10		40		40		0		5.6g/株(1..4kg/a)
潅水量(ﾘｯﾄﾙ/株/日)	手潅水		0.5		1		1		0.5		150～200L/株

表２　減肥による収量、品質

年度	試験区	窒素施肥量 (kg/a)	減肥率 (%)	商品果収量 (kg/a)	同左比 (%)	１果重 (g)
H12	減肥	1.8	59	1012	107	159
	慣行	4.4	(100)	944	(100)	151
H13	減肥	1.4	63	1355	94	192
	慣行	3.8	(100)	1437	(100)	188
H14	減肥	1.4	63	1190	102	175
	慣行	3.8	(100)	1169	(100)	181

※施肥量を現場慣行の 60%程度減肥しても商品果収量が安定して確保される。

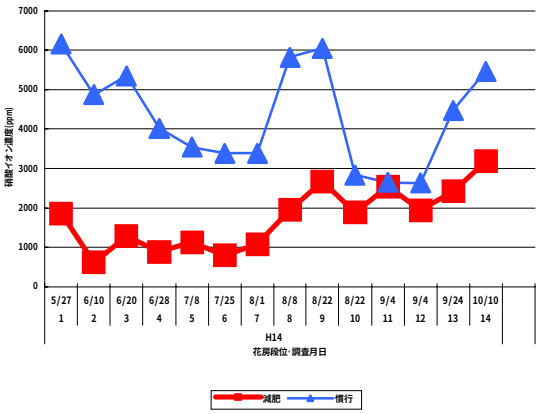

図１　硝酸イオン濃度の推移(平成 14 年)

※減肥区の葉柄搾汁硝酸イオン濃度は、栽培期間を通して 1000～4000ppm の範囲で推移する。

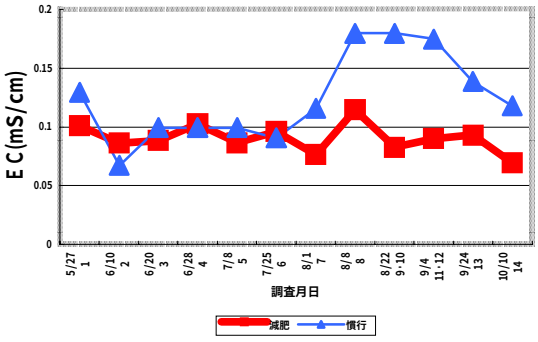

図２　土壌ＥＣの推移(平成 14 年)

※減肥区の土壌ＥＣ値は、栽培期間を通して 0.05～0.15mS/cm の範囲で推移する。

担当研究室　園芸畑作部　野菜畑作研究室
〒024-0003　岩手県北上市成田 20-1　　TEL．0197-68-4418　FAX．0197-71-1083